

気がかり MAP について



子育てや保育を通して子どもと日々関わっていると、いろいろな気がかりを感じてしまうものです。それは、言い換えると子どもとちゃんと向きあっている証です。

そんな日常的なよくある気がかりを、子育て中のママさんたちや保育者さんの協力を得て、年齢別に整理してみました。普段から見てもらえる場所へ、貼る等してご活用ください。「みんな同じようなことが気になっていたのね」「私だけじゃなかった」「誰かに相談してみてもいいのね」と感じるきっかけになれば幸いです。

● 保護者の方々へ

どこから見ても、読んでも OK！中面の「気がかり度」や年齢、内容は一例です。ここには「気がかりなこと」は、直接 MAP に書き込んでみてほしいです。子育てで大変な時期が過ぎた時に、よい思い出と振り返ることが出来ますように。

● 保育施設の方々へ

子育て中の方々が感じている不安や「気がかりなこと」について話さきっかけに、また、職員間での連携や情報交換のきっかけなどに、ぜひご活用ください。

謝 辞

「気がかり MAP」の作成にあたり、熊谷市内や埼玉県内の保育所、認定こども園の保育者の方々や、子育て支援センター・ペアリス(立正大学熊谷キャンパス内)の利用者の皆さまに、たくさん協力していただきました。

この場をお借りして感謝を申し上げます。

この MAP を見た方々が、赤ちゃんや小さな子どもたちを育てている毎日の忙しさの中で、ちょっとした気になること、なんとなく感じている不安を口に出して、周囲の友人・隣人・知り合いと会話したり、園の先生や園長先生、時には専門家に相談することで、子育ての大変さやストレスを少しでも軽くするきっかけとなれば幸いです。

すべてのお子さまの健やかな成長をお祈り申し上げます。

立正大学学園開校 150 周年にあたって

子育ては、本学の歴史をはるかに凌駕して変わらず続いてきた営みであると同時に、時代によって変化してきた側面もあります。本学園の 150 周年という節目を機に、長い歴史を持ちながらも、今も変化を続けている子育てや子どもの姿を切り取って、気がかり MAP を作成しました。この気がかり MAP は、立正大学学園開校 150 周年事業のひとつです。また、表紙中央のロゴは立正幼稚園の子どもたちと一緒に本山田准教授が作成しました。

社会福祉学部 子ども教育福祉学科

0 歳児から 5 歳児まで 保育・子育ての現場から

気がかり MAP



2023年2月15日発行 立正大学 社会福祉学部 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700 TEL.048-536-1328 《作成》立正大学 社会福祉学部 子ども教育福祉学科 岡本ゼミ
※無断転載を禁じます。内容の一部あるいは全部を無断で転載することは、法律で定められた場合を除き、禁じられています。転載を希望する場合はあらかじめ、立正大学にお問合せください。

教員からの メッセージ

教授 板野 晴子(いたの・せいこ) 専門分野/教育学

音楽に合わせて手足やお尻をフリフリ、あ〜♪と声を出す我が子を見て、「うちの子は天才!」と思いませんか?そう、子どもは音楽表現の天才なのです。子どもの感性がスポンジのように柔らかいうちに、家族みんなで一緒にたくさん歌を聞いたり、踊ったりして楽しませよう。大人になってその歌を思い出すと、家族との素敵な時間も心に思い出されるはず。



教授 大竹 智(おおたけ・さとる) 専門分野/子ども家庭福祉学

これまで私たち大人は、子どもたちにあるべき姿、目指すべき子ども像(〇〇できる子)等を掲げ、そのことに何の疑いも抱くこともなく、子どもの幸せを願って一心に取り組んできたように思います。しかし、今日では大人が作った枠組みに向かって行くこともできず、生きづらさを感じながら生活している子どもたちがいることもわかってきました。まずは子どもたちの声に耳を傾けることから始めてみましょう。



教授 大平 滋(おおひら・しげる) 専門分野/教育学

子どもは遊びの天才です。子どもが遊びこんでいるとき、夢中になり、自分らしくいるときです。この遊びそのもので、ゲーム機器などにより、操作された対象となり、子どもが主人公のあるがままの遊びが失われていきます。遊んだことにより創造性が育つと力がつくとかという目的志向でなく、ただ、遊ぶのです。遊びは自由そのものです。大切にしたいものです。



特任教授 佐々原 正樹(ささはら・まさき) 専門分野/教科教育学

子どもとの関わりには「相見る」「並び見る」「見守る」があります。「相見る」は子どもと向き合い、子どもの思いに寄り添い、丁寧に関わること、「並び見る」は、横並びで子どもと一緒に同じものを見て、語り合うことです。このような関わりの中で子どもは安心感を育み、やがて一人で世界を冒険するようになり「見守る」関わりが生まれます。この3つの関わりを大切にしてください。



准教授 藤高 直之(ふじたか・なおゆき) 専門分野/社会福祉学

子育ては、お父さん・お母さん・お父さんが中心ですが、地域には多様な子育て支援が行われています。例えば、日中の居場所支援や子育て家庭の交流の場となる「子育て支援センター」や「児童館」などがあり、保育士さんなどの心強い専門職もいます。また、地域住民同士で助け合いながら子育てが出来るとも増えていきます。家族だけで抱え込まずに、相談してみてください。



准教授 山田 修平(やまだ・しゅうへい) 専門分野/教育学

子どもの絵は、【自分なりの表現】【表現したいテーマが明確】という点で素晴らしいものです。【どのように見られるか意識しない】純粋さがあります。では、子どもの表現にどのように向き合いますか?それは【絵を聴く】ことです。何を表現してくれたか聞いてあげてください。何を想って表現したのかプロセスを含めて想いを聴いてあげてください。子ども期のおとも素敵な想いが詰まっていますよ。



特任准教授 新井 美津江(あらい・みつえ) 専門分野/数学教育学

小学校入学以前の体験が入学後の算数理解を深める基盤となります。たくさん自然の中で遊ばせてください。身のまわりにある数や量、形に気づいて、楽しむ…そんな時間を大切にしてください。



教授 奥富 庸一(おくとみ・よういち) 専門分野/幼児体育

外で自由に遊ぶような環境が少なかったり、人と人の距離やマスクなど、制限が多い中で大変なことだと思います。可能な限り、からだ全身を使った運動遊びや親子ふれあい遊びのようなじゃれつき遊びがたくさんできるといいですね。子どもたちはふれあい遊びの中で心とからだを豊かに育て、人との関わりを学んでいきます。たくさん遊び、たくさんご飯を食べて、しっかり寝て、一日一日元気に過ごせますように。



教授 志村 聡子(しむら・あきこ) 専門分野/教育学、教育史

娘が2歳か3歳のころ「ママはここにいて!」と言われたので隣に座り、遊び方を助言したら「しゃべらないで!」と言われました。隣にいてほしいけど、指示はしないで、ということだったようです。存在が傍らにいて安んじ、それで自身が遊びに専念できることを知っていたように思えます。「ゆつたりとそこにいて!」(『保育所保育指針解説』116頁)、そんなひとときを、短い時間でも作りたいですね。



教授 村尾 泰弘(むらお・やすひろ) 専門分野/臨床心理学

子どもの視点に立った子どもの理解と対応、また子どもの発達段階に応じた理解と対応が大切だと思います。これらの視点を大切にしたいものです。



教授 石橋 昌雄(いしばし・まさお) 専門分野/社会科教育学

子どもの成長は大人では想像ができないほどのスピードで、数日見えていないとできることがどんどん増えます。あっという間に立ち上がり、あっという間に話だし、あっという間に大きくなります。それなのに、お肌はすべて、体はしなやか、目はぱっちり、頭が大きくても倒れない、いたずらしても可愛がられる。うらやましい限りです。



特任講師 加藤 直子(かとう・なおこ) 専門分野/子ども学、保育学

日々、お父さんと向き合うお父さん、お母さんにとって、子育ては「終わりのない長い旅」のように感じられるかもしれません。子どもが生まれて初めて親になる、子どもも親と一緒に成長していくためには、子育てを社会に聞き、地域の人々で子どもを育む文化を創出して行くことが大切です。子どもって面白い!今しかない、わが子の「子どもらしさ」を楽しみましょう。



助教 門脇 大輔(かどわき・だいすけ) 専門分野/教育学

子どもは、どの子もより善くなりたと思っています。これは、わたしたち人間が道徳性を持っているからです。しかし、人間ですからうまくいかず、つまづいてしまうことがあります。つまり、うまくいかなくて子どもが大泣きしているときは、善くなるうとしているのにつまづいている時だということです。大人はその時にそっと支える存在でありたいものです。



助教 齋藤 正樹(さいとう・まさき) 専門分野/教育心理学

一見理解しにくい子どもの困った行動にもたいてい意味があります。遊びや余暇、周囲の人からの注目・賞賛・慰め・援助などを得る、欲しいものを手に入れる、したいことをする、したくないことをしないため、などです。どんなメッセージかを判断するには、その行動の文脈を読み取ることが重要です。子どもがどんな時にその行動をして、そのことでどんな利益を得ているのか注意深く観察してみてください。



教授 岡本 依子(おかもと・よりこ) 専門分野/発達心理学

「子どもの頭のなかに入ってみたい!」なんてたいたい興味があります。遊びや余暇、周囲の人からの注目・賞賛・慰め・援助などを得る、欲しいものを手に入れる、したいことをする、したくないことをしないため、などです。どんなメッセージかを判断するには、その行動の文脈を読み取ることが重要です。子どもがどんな時にその行動をして、そのことでどんな利益を得ているのか注意深く観察してみてください。



立正大学 社会福祉学部 子ども教育福祉学科

教育・福祉・心理の3つの領域を総合的に学び、乳幼児・児童の発達支援、そして、その家族や地域を支援する力を身につけます。

「子ども教育福祉学科」では子どもの育つ家庭、地域、社会環境など、子どもの発達と生活を総合的に捉え、質の良い教育内容と実践力を持って教育界に貢献することのできる教育者を養成しています。教育・福祉・心理の幅広い視点が得られる実践的なカリキュラムで、保育士資格・幼稚園教諭・小学校教諭の養成課程の認可を得ています。

気がかりMAP



ちよつと
なんとなく

気がかり度



すくすく
とつても

0歳～	1歳～	2歳～	3歳～	4歳～	5歳～
<ul style="list-style-type: none"> 排便が2～3日出なかった へその掃除の仕方が難しかった 指しゃぶり ずりばい お座りが遅く感じる 自分で食べたがらない 離乳食の進み具合がこれで良いのか分からず不安 人見知りや後追いでママ以外は受け付けない 離乳食の食べが悪かった 味の薄いものを食べたがらない 着替えやオムツ替えが大嫌い 何でも手づかみで口に入れようとする 哺乳瓶の乳首が受け入れられず誰かに預けることが難しかった どこにでも登りたがる 食べムラ 家で何をして遊んだら良いか分からない 夜続けて長時間寝てくれなかった 一度寝たら母乳の時間を忘れて寝続ける 夜にオムツ替えや授乳をするなんて知らなかった アレルギーがあるかもしれないと思った時 親子の関わり、過ごし方 スキンシップは取れているか おっぱいをうまく飲めず、体重が増えない 深夜、高熱などの対応の仕方 なぜ泣いているのか分からない うんちが頻繁でお尻が荒れて血が出ってしまった 夜によく起きるので自分の時間が取れない 自分がいつ寝ているのかワケが分からなくなっていた 夫が戦力外すぎてイライラ 人と会えず気分が落ち込んでしまう 母乳が出なくて悩んだ 寝返りを始めてから突然死が心配になる 大人のマスク着用で子どもの心や言葉の発達に影響がないか 	<ul style="list-style-type: none"> 咀嚼が苦手 好き嫌いが多すぎる 食べムラ 食べ過ぎる 自我が強い 手づかみ食で洗濯物が増えた 便秘が数日治らない おもちゃや絵本のかみ癖 食事の量や栄養について TVや携帯の与えすぎだったらどうしよう 絵本に興味を示さない 逆に文字や数字に興味がありすぎる イヤイヤ期 外食慣れしていない 肌トラブル(汗も・虫刺され) くっついていないと泣いてしまう 哺乳瓶でしかどんな飲み物も飲まない 寝る前のミルクを飲むのがなかなかやめられない 食べ物をばいばいする ママ追いがすぎて1人で遊んでくれない 指しゃぶり なかなか歩かない 喋らない 自分から食べようとしない 何でもなめてしまう 歯磨きを嫌がる 壁に落書き かんしゃく チャイルドシートのベルトから抜け出す 歩きたがるが、手をつなぎたくない 大人の言葉の理解ができない 発語が少ない気がする 散歩の時抱っこ紐だと重く、ベビーカーだと立ち上がってしまうけれど歩きたがらない すぐにどこかへ行ってしまって目が離せない 自分の時間がほしい アレルギーが気になる 誤飲 	<ul style="list-style-type: none"> 慎重すぎる性格 手をつないで歩けない 小食で自分の好きなものしか食べない おもちゃの取り合いが激しい 外では恥ずかしがり屋さん どこでも大きな声を出す 口に合わない食べ物は口からべーっと出す お風呂に入るとき泣かれる スーパーでカートに乗らず脱走して買い物できない 思い通りにならないとひっくり返る 抱っこばかりで腰痛、関節痛に お気に入りのタオルやぬいぐるみが手放せない イヤイヤしないとそれも気になる トイレトレーニング 偏食が始まってしまった 親の体力が持たない 食事の際座ってられない 高いところに上る、ジャンプする、走り回るぶつかる、転ぶ 周りの子と比べてしまう 発達面が気になり出す 言葉は大丈夫かな? 集団行動に乗れない(社会のルールやものの貸し借り等) ご飯を食べない 家にいるとずっとおやつほしい攻撃 イヤイヤといたずらがすごい 食べムラが始まり、野菜を食べることが減った 友だちに嘔みついてしまってトラブルに 遊ぶ場所がなかったり友だちに会えずストレス 	<ul style="list-style-type: none"> 食事のマナー 手の使い方(お箸、ハサミ等) 言葉で伝える力 オムツが外れるのが少し心配 友だちとの関係等、園生活について 話を聞くことができるか 何でも言葉にしてしまう 園でどんな風に遊んでいるのか きょうだいげんか 自分でやりたいけどできなくて泣くことが多い 登園時なかなか泣き止まない ちょっと口調を荒げるとへそを曲げて逆ギレして暴力的になる 大人への依存が強すぎる 注意を聞き流す 叱ると笑ってごまかそうとする オムツやパンツが汚れた状態を伝えられるか 自分で気持ちの切り替えができない 友だちとの距離感・遊び方 喧嘩をしたときの対応 自立しすぎている気がする 偏食がすぎて頑固 情緒が不安定になることも 遊ぶ場所が少なくストレス 言葉がうまく伝わらなくてこちらがイライラ 友だちとの関わりが少ない気がする 簡単な約束が守れない、守れたとしても短時間 誰にでも話しかける 	<ul style="list-style-type: none"> 文字に興味があって家じゅうの絵本の文字をなぞろうとして落書き お口が達者 相手の言い分が聞けない 転園などでおもしろが復活 きょうだいが生まれて同じように哺乳瓶でミルクを飲みたがる 素直に謝れないこともある 遊び相手を選ぶ(「いれて～」と言われて知らん顔) 「見て、見て」がしつこく感じる時がある 身の回りのことができない 自分のことは自分でしようという意欲がない お箸や鉛筆の正しい持ち方ができない 筆圧が弱い 遊び込めない 告げ口が止まらない トイレトペーパーの適量がわからないのか、出しすぎて遊んでしまう 友だちが悪いとしても、その指摘が厳しい 手先が不器用 園などで友だちとうまく遊べてるかどうか 好き嫌いが多い 言葉が強すぎると感じる時がある きれい好きはいいのだけど、のりやどろんこで遊べなかったり、おもちゃが出せない 	<ul style="list-style-type: none"> 就学に向けて何をしたらいいかわからない ルールが守れない 手が出る 夜なかなか寝つけない 自分のことは自分でしようという意欲がない 言葉がきつい 整理整頓が苦手 ウソを付くことができるようになって心配 文字や数はどこまでやってあげばいいかわからない 歯がなかなか抜けない 虫歯 小学校に行くのが心配 逆上がり、跳び箱など他の子よりできない 1つのことに集中できない 座ってられるか 就学に向けての意欲がない 小学校が心配になるようで、ときどき気弱なことを言い出す 自分の言葉で話せない 小学校での登校や下校 友だちとのトラブルを自分たちで解決できるか いじめられないかどうか 早寝早起きが難しい 給食時間で食べ切れない 就学後ちゃんとやっていけるかどうか 白米のみお肉のみなど偏食が定着しつつある 話の内容を理解できているか 失敗してもまたチャレンジができるか 自分の気持ちや考えを言葉で伝えられない 困っていることを伝えられない

気がかりな心配事について、誰かとおしゃべりをする場所としてお住まいの地域の「子育て支援センター」があります。地域の保育所・幼稚園・こども園でも相談を受け付けているところもあります。立正大学熊谷キャンパス内・子育て支援センター「ベアリス」も、お気軽にご利用ください。(※ご利用できるのは小学校就学前のお子さんです。)詳細はQRコードより▶▶▶

立正大学社会福祉学部

ベアリス

